日進地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２７年７月３日（金）　１９：００～２０：２０
２　会　場　日進地区公民館
３　出席者　地元出席者　１８名
市側出席者　１４名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、亀屋庁舎整備局長、田中中核市推進監、田中企画推進部長、藤井都市整備部長、富山危機管理課長、平戸学校保健給食課長、高橋秘書課長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、國本協働推進課主事

４　中核市移行についての説明
（中核市推進監）※チラシに基づき説明

５　人口ビジョン骨子（案）についての説明
（企画推進部長）※チラシに基づき説明

６　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）
（地元意見）
山白川の改修と通学路の改修についてです。山白川の補修、護岸工事は完了して良くなりました。ところが、通学路はその後に良くなると以前から聞いていたのに、まだできていません。地域からもいつできるのかという話も出ていたので、先般、道路課に電話をかけて問い合わせました。すると、設計業者が決まらず保留になっていると言われました。
自治連やまちづくり協議会でも良いのですが、一度は、この辺りまで進んでいるとか、今後こういう形で取り組んでいくという報告をするなどの行政サービスがあっても良いのではないかと思います。民間業者であれば、今後のスケジュールや進捗状況の報告はきちんとしてくれるのですが、行政は、表現は悪いが割とルーズだと思います。きっちりとした説明が必要だと思います。これからもいろいろなこともありますし、今、日進校区はゾーン３０をしていますが、今後その区域も広がっていきますので、節目節目の報告や行政としての対応を知らせてほしいです。

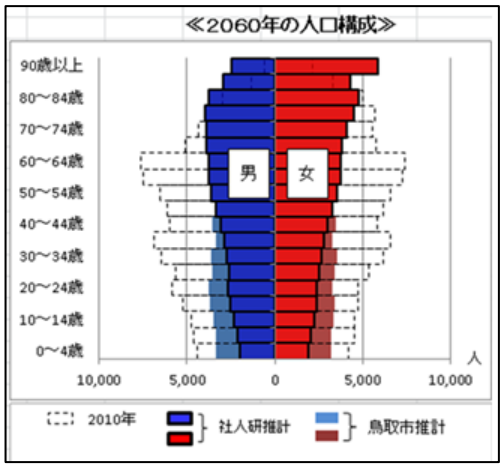
（深澤市長）
私も、節目節目に、今どうなっているか、進捗状況はどうかということを地域の皆様にご説明する必要があると思っていますので､そのあたり改善を図っていきたいと思います。

（都市整備部長）
昨年度、レインボービル前の車道橋に並行して歩道橋を設置する予定があり、予備設計を行うための設計業者を公募しましたが、応募者がありませんでした。このため、公募の

内容を精査、検討し、今年度改めて設計業者を公募することにしています。

今後の予定としては、８月に公募を行い、設計業者による歩道橋の予備設計と詳細設計を行い、来年度に工事着手する予定としています。

（地元意見）



今日の懇談会の初めに鳥取市の人口ビジョン骨子の説明があり、手元資料の中に２０６０年度の人口構成の表がありました。

総合戦略の施策として､｢次世代の鳥取市を担う“ひとづくり”｣や｢誰もが活躍できる“しごとづくり”｣などが項目に挙げられていますが､高齢者の対策が活字として見えていません。人口構成の表では、すでに６０歳以上がふくらんでいます。だから、高齢者対策を入れてほしいです。

高齢者は、どうしても弱者というか、交通手段がないため買い物や病院が近くなければいけません。街なかに若い人はなかなか寄ってきませんから、市街地の街なかの便利の良い所に、例えば高齢者の住宅を建てるとか、それに付随したような物を建てるなど、今空いているスペースや公の土地などを活用して、利便性を考えた高齢者対策を検討してもらえたらと思います。

（深澤市長）

お渡しした資料は骨子案で、本当に骨格のようなざっとしたものですので、もちろん高齢者対策についてもきちんと位置づけていきたいと考えています。また、全国の自治体で少子高齢化や人口減少が喫緊の課題になっていますので、しっかりと進めていかなければならないと考えています。

２０２５年問題などというのですが、人口減少等により、今から１０年後には団塊の世代の皆さんが７５歳に到達されます。その時に、医療や介護、予防、また住まいなどのさまざまなことについて、鳥取市だけなく全国の問題ではありますが、どうやって支えていくのかということが言われています。鳥取市は、いち早く仕組みづくりを進めていこうとしており、総合戦略の中にも地域包括ケアシステムなどの取り組みも位置づけていきたいと考えています。

（企画推進部長）

高齢者対策について、今、国が「ＣＣＲＣ」という、都会の高齢者の方を地方に呼んでくるという施策をしています。鳥取市もそれについて検討しようということで、今週、庁内でプロジェクトチームを立ち上げました。

ただ、鳥取市外の高齢者の方というわけではなく、やはり地元鳥取市の高齢者対策として、より良い住まいにしていきたいという方向ですので、若い方の就労の場とのセットで考えていきたいと考えています。ご意見ありがとうございました。

（地元意見）

鳥取市外から高齢者を入れてみてはどうかという話については、鳥取市としてどう考えているのか分かりませんが、そうなると、社会保障費についてどう考えていますか。

今は、保険料がどんどん上がり、私の場合は月計算で約４万円になります。そして、電気料金や水道料金を払うとほとんど残らないのが現状です。最近は、年金は補助金と考えろ、などと政治家も言っているようですが、私達はそういう発想で年齢を積んできたわけではありません。今さらそんなことを言われたら大変だという思いもあります。この間も列車で自殺をした方がおられましたが、あれは一種、社会に対する反発を見せつけた問題ではないかと思います。そのような思いもあり、社会保障費の問題を軽減する方向で考えるにはどうしたらいいかと考えるわけです。

人口増加も結構ですし、高齢者を入れるのも結構ですが、介護保険料などは地区によって違うわけですから、自治体で負担する社会保障費などのことも考えていかなければいけないと思います。

（深澤市長）

社会保障費ということで、例えば、介護保険料や介護給付費、また医療関係では国民健康保険の医療費給付など、いろいろあると思います。これについては、年金も含めて考えていくべきだと考えています。これから高齢化社会がどんどん進んでいく中で、鳥取市だけではなく国全体として社会保障制度をどう考えていくのか、今後どう確保していくのかということは、大変重要な課題、問題です。鳥取市としても、今後いろいろな意見も出していきたいと思いますし、国全体で考えていかなければならない問題だと思っています。

（地元意見）

人口減少というのは大切なことだと思います。鳥取三洋がなくなって若い人がいなくなりました。三洋があっても、若い人は都会に出て行かれました。私の子どもも、関西方面にいるので、恐らく鳥取には帰ってきません。そういう方々が鳥取市内にどのぐらいおられるか分かりますか。一つの家に夫婦だけで暮らしておられるというのが結構あるのです。そういった夫婦の方々は、どうせ子どもは帰ってこないから、この家を何とか処分しなければいけないなど、悪い方ばかり考えて生活しておられます。高齢者は、自分の病気の事や他のどんな事よりも、どうしたら子どもが地方へ帰ってきて後を見てくれるのか、という事を心配しておられます。

今は地元に帰って親を看るとか墓をみるということは、あまりありません。出て行った先で結婚し、そこに住みます。だから、鳥取には親が２人で住んでいる家が多いのです。市長自身も、これから高齢者になったら同じ状況になるかもしれません。

それから、やはり大企業を鳥取に引っ張ってこなければいけないと思います。そしてそのためには、知事や市長が大会社に行って社長さんに会って、次に企業進出をされる時は、何とか鳥取にしてもらえないだろうか、と約束を取りつけるような営業をしてほしいと思います。担当課の職員が出向いてもなかなか難しいです。しかし、知事や市長が行けば、間違いなく社長は会ってくれます。テレビで、市長が直接出向いているのを見ました。本当にご苦労さまです。それによって、今度進出する時は行きますという約束をその場でし

た大企業がありました。４千人も勤めている所です。

そういうことで、鳥取で育った子はなるべく鳥取に帰ってきて、企業に就職してもらうということでなければ、今ある中小企業では、なかなか給料も安いし勤められないと思います。

先日、河原の工業団地にトヨタと飛行機の部品を製造する会社が来ましたが、私はこれを素晴らしいと思いました。やはり、こういう名の通った企業が来るようにしないと、小さな会社では、手を挙げて補助金だけ使ってやめていると世間では言われています。そういうこともしっかりと調査し、補助金を出す時には会計監査もきちんとして、「鳥取」に、「鳥取の人が」生活できる会社を持ってくるということを、お願いします。

（深澤市長）

人口減少等が進んでいく中で、鳥取市出身の方にこちらに帰ってきていただいて活躍をしていただけるような方策を考えていくべきだというご意見には、私も全く同感です。Ｕ・Ｊ・Ｉターンといいますが、Ｕターン、県外で活躍していらっしゃる鳥取出身の方に、ぜひとも鳥取に帰っていただくということです。

そのためには、いろいろな方策が必要だと思います。まず働く場、雇用の場です。大企業中心に、もっと誘致に努めていかなければならないというご意見もいただきましたが、私も、鳥取市の喫緊の課題は、まず雇用の創出、雇用の確保、拡大であるということを、昨年からいろいろな場でお話させていただいています。

「今井航空」と「イナテック」について少し触れていただきましたが、こういった将来有望で安定した企業を中心に、今後も誘致に努めていきたいと思っていますし、私もできる限りその社に直接出向いてトップの方とお会いし、鳥取市の素晴らしい所や補助制度などの優位性についても詳しくお話しして、進出をしていただけるよう心がけて取り組んでいるところです。

河原町にある布袋工業団地は、今拡張工事を進めていこうとしていますが、「マルサンアイ」という豆乳の会社が進出していただけることになっています。また、旧三洋電機跡地では、お菓子の「源吉兆庵」が工事にかかっておられますし、その隣の土地にはジェネリック医薬品の大手メーカーである「共和薬品工業」が来てくださることになっています。

最近、鳥取市は、非常に優良な企業の進出が相次いでいますので、多くの皆さんに鳥取で就職して活躍していただき、まちづくりに参画していただけるように、今後もしっかり取り組んでいきたいと思っています。

（地元意見）

私は、８０歳です。私が子どもの時は、１学級が５０人で、１学年に３００人の子どもがいました。日進も１，５００人いました。人口減少にあたって、子どもを作ることについては、若い方に頑張っていただく必要があります。

私は、前市長の時に、子どもが４人産まれたらお祝い金として１００万円を交付したらどうですかと提案したことがあります。たまたまそこに議員さんもおられて、いいですねと言われました。そこはそれで終わったのですが、先日、テレビに、人口減少の対策として、実際に１００万円を交付している自治体が出ていました。５人の子どもがいれば、１

人の大人を養っていけるような人になってきます。学校が、一人一人を大切にするというのも分かりますが、こういう人も大事にしなければいけないと思います。５人６人産まれた人は大変なのです。だから、一時金としてやはりそれくらいの予算を持ってやっていかなければいけないと思います。

（深澤市長）
私も、人口増加対策については、今後いろいろな角度から取り組んでいかなければならないと思っていますが、まずは医療費の負担軽減や保育料の軽減など、できるところから少しずつ進めていきたいと思っているところです。一時金等については、また今後研究をさせていただければと思いますが、いずれにしても、雇用創出等を図っていく中で人口増加対策もしっかり取り組んでいきたいと思います。

（地元意見）
弥生町に末広公園という公園があります。以前は遊具がありましたが、危険だということで撤去しました。下に防火水槽が入っています。ここが今、草がぼうぼうと生えています。以前は子どもがたくさんいたのでよく遊んでいましたが、今では子どもも２、３人しかいないので、遊ばなくなりました。定期清掃のときには草を取りますが、清掃以後はぼうぼうになって非常に不潔です。また、弥生町の中にあるため、心ない酔っぱらいの方が公園内で用足しをしたりして非常に臭くて中に入れません。
この公園をどうにかしてほしいです。コンクリートで埋めるというのはどうかと思いますが、草が生えているために公園に入れず、キャッチボールもできない、ボールの一つも蹴れないという状態です。一度責任者に見てほしいです。

（深澤市長）
公園管理については、公園愛護会の皆さんのご協力をいただいていますが、十分でないということであれば、対応や対策も考えていかなければならないと思います。
用足しをされる方がおられるということですが、トイレが近くにあったように思います。本当はそちらのトイレを利用していただかないといけませんので、何とか注意喚起等も図っていきたいと思います。

（担当課補足：都市環境課）
末広公園をはじめとする街区公園につきましては、指定管理者である（公財）鳥取市公園・スポーツ施設協会から、各地元の公園愛護会へ日々の管理をお願いし、ご協力をいただいているところです。
今回のご指摘を受け、委託元の指定管理者において除草を行いました。
なお、公園の適切な利用について、注意喚起の表示を設置いたします。

（地元意見）
中核市の説明の中で保健所の話が出ていたので、捨て猫についてお願いしたいです。弥生町近辺は飲食店があり、捨て猫がたくさんいます。そして夜になると、飲食店が出す残

飯の袋を破って、カラスと一緒に食べていきます。だから道が非常に汚くなります。加えて、心ない人が餌づけをしていて、町内会や飲食店からもかなり苦情が出ています。特に、駐車場や公園、空き家の辺りにすごくいます。一つの群れに５匹から６匹いて、１年経つと２、３匹増えます。時々、交通事故に遭って市に連絡することもあります。良い捨て猫対策はないでしょうか。

（深澤市長）

中核市になると、保健所業務が鳥取市の事務になりますので、そういった対策等もしっかりと講じていかなければならないと思っています。餌づけの問題や数が増えていくことについて、今具体的にどうすれば良いかということはなかなか難しいですが、捨て猫対策等も、中核市移行と併せてしっかりと鳥取市でできるようにしていきたいと思っています。

（担当課補足：生活環境課）

動物愛護管理法に基づき、鳥取県は動物愛護管理推進計画を定め、動物の終生飼養・適正飼養等、動物愛護の推進を図っています。

同計画では、飼い主のいない猫への対策として、安易な収容・引取りは行わず、飼養者へ終生飼養等の周知徹底を図ることとしています。

餌やりをしている個人が特定された場合に、市は鳥取県と同行訪問し、その個人に対し、餌やりをしている段階で飼い主であること、飼い主として適正な飼育を行うよう助言指導を行っています。

中核市移行後も県との連携、他市の取り組み等を参考に、効果的な捨て猫対策について研究・検討を行います。

（地元意見）

市庁舎の進捗状況を聞かせてほしいです。２年ほど前、前市長の頃に反対運動などがあり、賛成反対の意見でけんけんごうごうという段階で聞かせてもらった話では、新市庁舎を建設するには、約７０億円でできると言われていました。ところが、最近では９０億円以上かかるのではないかという話を、ちらほら聞きます。それ以上になっているのかもしれません。今の段階で、総額がいくらかかるか計算していますか。

（深澤市長）

まず、今の状況ですが、６月市議会が先月６月２９日に閉会になり、庁舎整備の概算事業費が少し増えるということで、設計に係る経費についても、少し増額をした補正予算を可決いただいたところです。工事前には設計が必要ですので、基本設計、実施設計といった設計業務に入っていく準備を進めていこうとしているところです。

また、事業費が少し増えている要因は大きく３つあります。１つは、当初、消費税率を５％で計算していましたが、庁舎の工事にかかる頃には１０％になるという消費税率のアップによる増加、そしてもう１つは、建設資材の価格が１８％程度上がったことによる増加です。

さらにもう一つは、鳥取市は平成３０年４月に、中核市に移行するということで準備を

進めています。中核市になると職員数も少し増え、役所の体制としても整えていく必要があり、少し庁舎を大きくしなければいけなくなります。
　大きくこの３つの要因により、概算事業費が増加するという状況にあります。
　今の時点で計算している概算事業費は、９８億４千万円です。

（地元意見）
　前市長は、新庁舎から鳥取駅までの経路の改装もするような話をしていましたが、そういう事業費も含めていますか。

（深澤市長）
　鳥取駅やバスターミナルから新庁舎の方まで歩道橋や陸橋などで直接行けるようになれば、安全で非常に便利ですが、今の事業費等を計算する中では、まだそういったことは含めていません。また今後、市民の皆様にいろいろなご意見をいただきながら、その辺りについても検討させていただきたいと思っています。現段階では、具体的な計画は持ち合わせていません。

（地元意見）
　新庁舎の事業費が、７０億円から約１００億円になりますね。私は、恐らく１００億円を超えるだろうと思います。しかし、せっかく造るものですから、ちゃちな物を造られても困ります。ビジョンをしっかり持っていただきたいです。

（深澤市長）
　これから設計業務に入り、専門家の人達によって具体的に図面等も作成していく中で、事業費についての計算をしていただくことになります。先ほど申し上げた９８億４千万円は、あくまで市が、ごく大ざっぱな計算をさせていただいたものです。
　私共は、できる限り９８億４千万円を減らしていけるよう、引き続き検討していきたいと思っていますが、また一方では、将来を見据えて５０年、１００年の大計に立ってしっかりした物を造らなければならないのではないかというご意見もいただいています。
　そのあたりについては、具体的な設計業務の中でさらに詳細な検討をしていくことになると思います。

（地元意見）
　現在の市庁舎を売却して、埋め合わせをするという考えもありますか。噂かもしれないが、現庁舎は残すという話を聞いている人もいます。
　さらに前市長は、７０億円かかっても国からお金が下りるのだから、鳥取市民には影響は及ぼさないし、影響は与えないと断言していました。深澤市長はどうでしょうか。

（深澤市長）
　移転後の現庁舎の跡地の利活用については、いろいろなご意見をいただきながら検討していく必要があると思っています。売却するというのも１つの選択かもしれませんが、こ

の中心市街地の中にある、鳥取市の貴重なまとまった土地ですので、将来を見据えて最大限有効活用していくことが必要だと思います。具体的な跡地利活用については、これから検討を進めていかなければならないと思います。

前市長の発言については、これは恐らく、有利な財源を活用してこの大事業を進めていくという説明をさせていただいたのではないかと思っています。

合併特例債という、またとない非常に有利な制度があります。これは、手持ち資金を５％とし、残りの９５％は借り入れをして、その借り入れを将来２０年３０年かけて元利償還をしていくというものですが、その償還の時に、７０％部分については国が確実に地方交付税という形で補填をしてくれるということで、結果として２０年３０年の分割払いで、実質１／３の負担で済むということがあります。あと約５年以内に事業が完了すればこの制度を使うことができますので、事業費が７０億円から９８億円になっても、こういった有利な制度を最大限活用することによって、市民の皆様に新たな負担が生じるということはありませんので、そのあたりについては改めて説明させていただきたいと思っています。

（地元意見）

大変言いにくい話ですが、６月３０日の読売新聞に、ボーナスの記事が載っていました。市長は大変たくさんのボーナスをもらっておられますが、職員は鳥取県内の市の中で一番最低の金額でした。そして、市会議員はまたトップですね。こういう状況を市長さんはどう考えられていますか。

（深澤市長）

市長、副市長等はいわゆる「特別職」といい、一般の職員は「一般職」といいますが、特別職については「特別職報酬等審議会」という会があり、そこで月額給料やボーナス、期末手当等についても決めていただいています。いろいろな社会情勢や、類似した市等と比較して大体この程度で、と決めていただき、それに基づいた支給額になっています。

いろいろな見方があるかと思いますが、ご意見としてお聞きしたいと思います。

（総務部長）

一般職員のボーナスが県内で低かったのには、２点ほど要素があります。

まず１点は、県内４市役所の職員には給料表というのがあります。国家公務員の給料表に準拠しているため同じような給料表になっています。ただ、職員の平均年齢によって若干違ってきます。大体平均が４３歳と４１歳であれば、どうしてもベースが違ってきます。

また、鳥取市の場合は特殊な事情があります。鳥取市には、職員が１，２６０名程度いますが、それ以外に保育士関係が１６０名程度おり、それをベースとして平均額を出しています。保育士は、今までは１年雇用の短期の臨時職員でしたが、今は任期付短時間勤務といい、正職員に準拠するような雇用をしながら、その上で勤務時間を短くするという雇用形態にしています。すると、職員単価が下がるため、最終的な職員１人当たりの平均ボーナスが下がってきます。県内の他の３市については、鳥取市のように、保育士を中心とした任期付短時間勤務の職員がそれほどいないため、どうしても高止まりになるという、以上の２点の要素があり、結果的には他市よりも低いボーナスだったということです。

（地元意見）

日進地区のまちづくりに限定したことではないのですが、鳥取市全体のまちづくりのことで一言言わせていただきます。

今、国を挙げて観光業を推し進めているところで、鳥取も観光業を一生懸命やっています。西日本高速道路が出しているフリーペーパーの中に、サービスエリアで人気のご当地カレー大特集というページがありました。鳥取は、カレールーの人口当たり年間消費量が日本一で「カレールーのまち」と言っているので、この中に載っているかと思って期待して見ましたが、載っていませんでした。

鳥取市のご当地カレーを作っていないのか、ご当地カレーはあるが高速道路のサービスエリアでは売っていないということなのかは分かりませんが、ご当地カレーがもう作られているのなら宣伝不足だし、ないのなら作らないといけないと私は思います。鳥取市はそれほどカレーを推していないのかもしれませんが、例えば砂丘に行った時でも、鳥取を代表するようなお土産がないようではがっかりだと思います。お土産は誰もが買って帰るものですから、そういう物がないといけませんし、高速道路のサービスエリアで売っていないなら、フリーペーパーにも載せてもらえるように、鳥取市で早速作って置いてもらうようにしないといけないのではないかと思います。

結構何年も前から、有志の方が鳥取のカレーといって頑張っておられますから、カレーを鳥取のお土産にするのも大切ではないかと思います。

また、最近ではＪＲ西日本の「瑞風」が鳥取駅と東浜に停まるという、棚からぼた餅のような良いニュースもありました。人口減少社会で企業誘致も大切ですが、外から来てもらうことはまちのにぎわいづくりに大切なことですから、観光業も力を入れてやっていかないといけないと思います。

（深澤市長）

定住人口を増やしていくということと併せて、鳥取にたくさんの方に来ていただく交流人口増加の取り組みは、これからは大変重要ですので、鳥取市は観光振興にも今しっかり取り組んでいるところです。

ご当地カレーは、幾つかあると思っています。高速道路のフリーペーパーにはご当地カレーには載っていませんが、例えば二十世紀梨を使った梨カレーは、砂の美術館でも販売していますし、最近ではビーツを利用したピンク色のカレーなども開発されています。カレールーの消費量が多いまちであることは全国的に有名ですので、これからも大いにＰＲをしていくことによって、こういった情報誌などでも取り上げていただけるのではないかと期待しているところです。

（地元意見）

日進地区の末広通りや山白川沿いの弥生橋通りは、駅から近く、鳥取市の中心です。

観光で鳥取にやって来た方に、砂丘と駅の往復のみではなく、少しでも街なかを歩いてもらおうと思えば、今の末広通りのあのがたがたの歩道と汚らしい花壇をどうにかしないといけないと思います。県道だから市は関係ないという態度ではなく、整備をお願いしま

す。

（深澤市長）
末広通りは県道ですから、花壇の整備等については以前鳥取県に要望し、早速対応していただいたところです。歩道等で整備が必要な箇所については、県に要望していきたいと思います。

（地元意見）
私は、日進地区ほっとライト委員会で、子ども達が安全に通学できるよう見守っていますが、鳥取駅から卯垣に抜ける大きな４車線の道路に設置されている横断歩道用の青信号の時間が短いので、長くしてほしいです。
今までは、１０人、２０人ぐらいの子ども達で班を編成して渡っていましたが、南吉方二丁目は現在５０人以上の子どもがいるため、一度に渡りきれません。
こぜにやの前の信号と、もう１つ先の二丁目の吉方から出るオザキ住建、医師会館の先の横断歩道の所が通学路になっています。通学の時間帯である、午前７時３０分から７時４０分ぐらいの１０分間程度の間、５秒でも１０秒でも良いので時差信号で長くしてほしいです。
警察に私達が言ってもだめでしょうから、市の教育委員会で何とかしてほしいと思います。

（深澤市長）
今の状況について、まずは現地で確認をさせていただきたいと思います。

（担当課補足：学校保健給食課）
通学路の安全対策については、平成２６年６月に設置された「鳥取市通学路安全対策推進協議会」において、構成員である学校、保護者、地域住民、教育委員会、道路管理者（国・県・市）及び警察等の関係機関が連携して行っております。
本件につきましても、平成２７年度に、関係機関が現地で一堂に会して「通学路合同安全点検」を実施し、要望内容も含め、地区の実情に応じた対策方法を検討していくこととしていますので、ご協力をお願いします。

（地元意見）
何年も前から言っていますが、この市街地に防犯カメラを１台と言わず２台でも３台でも取りつけてほしいです。前回の地域づくり懇談会では快い返事をもらいましたが、そのまま立ち消えになっていますので、検討してください。

（深澤市長）
防犯カメラの設置については、以前から懇談会等でもご意見をいただいていますので、今、検討させていただいているところです。

（危機管理課長）

道路に防犯カメラを設置するとなると、撮影される方のプライバシーの問題があります。防犯カメラは、犯罪が多い地域や犯罪が発生する可能性が非常に高い場所、そして防犯カメラの他に有効な手段がないという場合に設置するというのが、基本的な条件となっています。

他市の事例等もいろいろ研究しているところですが、防犯対策としての地域のパトロールなどの活動や、警察によるパトロールなど、いわゆる巡回の見守り活動を補完するものとして、地域が防犯活動のために自主的に設置されるケースが多いようです。

鳥取県や鳥取市では、防犯カメラの設置のみの助成制度はありませんが、鳥取県警察本部とも、有効な防犯カメラの設置の支援体制について現在協議をしているところです。

7　市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げたいと思います。

長時間にわたり活発なご意見等をいただきましたことに、まず心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今、鳥取市は将来を見据えて中核市移行の準備を進めているところですし、懸案のこの庁舎整備についても、これから設計業務に入っていくという段階になりました。これからも多くの皆さんのご意見をいただきながら、この大事業を着実に進めていきたいと思っています。中核市移行も大きな取り組みですが、これは、鳥取市はもとより山陰の東部圏域が、これからも存続して発展をしていくための必要不可欠な取り組みであると考えています。どうかこのことについても、皆さんのご理解を賜りたいと思っているところです。

社会保障のありようについてのご意見も、いろいろといただきました。高齢化社会に移行していくにあたり、これもみんなで考えていかなければならない大切なことです。鳥取市だけではなかなか制度設計等のできない大きな問題、課題ですので、国等にもしっかりと意見を申し述べていきたいと思っています。

今日いただいたご意見等については、できる限りそれぞれの部署で対応させていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

長時間にわたり熱心にご議論いただきましたことに重ねて感謝申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。